

## 沐浴技術修得に関する利き手の影響

### Influence of Hand Dominance on Acquiring Skill in Newborn-baby Bathing

二村 良子    小林 文子    川出富貴子

【要 約】 3年制看護課程の学生2年次生165名を対象に新生児の沐浴を実施させ、その沐浴技術修得評価を行った。さらに、利き手調査を行い、右利き・左利きにより沐浴技術評価に差がみられるかどうかを検討した。

利き手調査項目は手の動作14項目を使用した。14項目中9項目については90%以上の対象者が右手を常用していた。

沐浴技術評価はA=3点, B=2点, C=1点を付与し評価得点を求めた。さらに利き手調査について「右手常用13以上」(125名), 「右手常用13未満」(40名)に分類し, 沐浴技術評価を実習評価基準の区分別に比較した。いずれの項目も両者間で有意な差はみられなかった。沐浴時間, 練習回数についても有意な差はみられなかった。

利き手調査項目別に沐浴技術評価「総合点」を右手・左手常用で比較したが, いずれの項目においても有意な差はみられなかった。しかし, 全体でみると5%の危険率で有意に右手常用の方が沐浴技術評価「総合点」は高かった。

【キーワード】 沐浴, 利き手, 沐浴指導, 看護技術

#### I はじめに

分娩後には母親への沐浴指導が一般的に行われている。病産院等で多く使用されているのは二槽式の沐浴槽であり, それは右利き用に作られている。この二槽式沐浴槽を用いた沐浴指導時に左利き母親より沐浴が難しいとの申し出があった。また, 学生が学内および臨床実習において沐浴を実施する場合にも, 左利きの学生は実施しにくいとの訴えがあった。そこで学生を対象に利き手と沐浴技術修得との関連について検討した。

#### II 方 法

対象は3年制看護課程の2年次生であり, 沐浴技術修得評価を行った者のうち, 利き手の評価を合わせて

表1 利き手調査項目

- |  |
|--|
| 1. ボールを投げる手はどちらですか。  |
| 2. ピンの栓を抜く手はどちらですか。  |
| 3. ハサミを使う手はどちらですか。   |
| 4. 針の孔に糸を通す時, 糸を持つ手はどちらですか。                                |
| 5. リンゴの皮をむく時, ナイフを持つ手はどちらですか。                              |
| 6. 歯をみがく時, 歯ブラシを持つ手はどちらですか。                                |
| 7. 字を書く時, 鉛筆を持つ手はどちらですか。                                   |
| 8. 食事をする時, ハシを持つ手はどちらですか。                                  |
| 9. 水道の栓をひねる時, 主に使う手はどちらですか。                                |
| 10. 用便後に紙を使う手はどちらですか。                                      |
| 11. 買い物の支払いでサイフからコインを取り出す手はどちらですか。                         |
| 12. ドアの取っ手はどちらの側の手で持ちますか。                                  |
| 13. 髪をとく時, 主に櫛を持つ手はどちらですか。                                 |
| 14. シュガーバックを破る時, 片手でバックを持ち, 他の手で端をつまんで破りますが, どちら側の手で破りますか。 |

行った学生165名である。

学生には評価にいたるまでに事前学習として、沐浴手順書を渡し、課題事例のレポート、沐浴練習時のチェックリスト提出を求めた。

評価の時期は臨床看護に関する講義がすべて終了する2年次生の年度末に行った。

沐浴技術修得評価のために、学内の二槽式沐浴槽にて新生児沐浴人形を用いて実技を20分行わせた。

沐浴技術修得評価は既報<sup>1)</sup>に示した沐浴実習評価基準19項目について行った。評価尺度はA, B, Cの3段階とした。

沐浴技術修得評価は母性看護担当教員4名があたった。それぞれの教員は評価の見落としを少なくするため、異なった位置から観察し、ビデオ撮影も行った。実技終了後直ちに評価表を記入し、それぞれの教員の評価を照合した。4名の評価不一致の場合は、ビデオを再現し、評価、解釈の確認を行った。

利き手判定にあたっては、チェックリストへの記入を行い、日常生活動作における利き手を把握した。チェックリストは筆者ら<sup>2)</sup>が作成した利き側調査項目のうち、沐浴技術は主に上半身を使用しての技術であるので、妥当性が認められている手動作14項目(表1参照)を用いることとした。各項目別に右, 左, または決まっていないの3選択肢から1つ選んで○印をつけさせるようにした。この利き手のチェックリストを沐浴が終了した直後に配布し、自己記入後直ちに回収した。

### III 成 績

対象学生165名について、各項目別右利き・左利き割合を表2に示した。

14項目の手動作で右手の割合が最も高い項目はNo.7「字を書く時、鉛筆を持つ手はどちらですか。」の100%であった。14項目中No.1, 2, 3, 5, 7, 8, 9, 10, 11の9項目は90%以上の対象者が右手を常用していた。これに対して右手常用割合が最も低い項目はNo.12「ドアの取っ手はどちら側の手で持ちますか。」の79.4%であった。

左手の割合が最も高い項目はNo.4「針の孔に糸を通す時、糸を持つ手はどちらですか。」とNo.10「用便後に紙を使う手はどちらですか。」であり、7.9%であった。

対象学生165名について、沐浴技術評価について評価尺度A=3点, B=2点, C=1点を付与し、実習評価基準の区分「準備」, 「実施」, 「終了後」, 「総合点」のそれぞれについて沐浴技術評価を数量化表示し、評価得点を求めた。

さらに、利き手調査は14項目あり、満点を14点とす

表2 各項目別右常用・左常用割合

項目 No.	右		左		きまっていない	
	人数	%	人数	%	人数	%
1	156	94.6	8	4.8	1	0.6
2	153	92.7	6	3.6	6	3.6
3	163	98.8	1	0.6	1	0.6
4	146	88.5	13	7.9	6	3.6
5	162	98.2	3	1.8	0	0
6	147	89.1	5	3.0	13	7.9
7	165	100.0	0	0	0	0
8	163	98.8	2	1.2	0	0
9	154	93.3	3	1.8	8	4.8
10	149	90.3	13	7.9	3	1.8
11	149	90.3	8	4.8	8	4.8
12	131	79.4	10	6.1	24	14.5
13	144	87.3	6	3.6	15	9.1
14	146	88.5	12	7.3	7	4.2
平均値	152.0	92.1	6.4	3.9	6.6	4.0
標準偏差	±9.4	±5.7	±4.4	±2.7	±6.9	±4.2

表3 利き側別得点・沐浴時間・沐浴回数平均値の比較

	平均値±標準誤差		
	右手常用13以上(A) (125名)	右手常用13未満(B) (40名)	差 (A)-(B)
準備	6.8±0.2	6.7±0.2	0.1
実施	18.4±0.2	18.0±0.4	0.4
終了後	5.9±0.1	5.6±0.2	0.3
総合点	31.1±0.4	30.3±0.6	0.8
沐浴時間	5分21秒±04秒	5分43秒±13秒	-22秒
沐浴回数	3.7±0.1	3.6±0.2	0.1

表4 各項目における右手常用・左手常用別得点比較

項目	人数	平均値±標準誤差			
		右手常用	人数	左手常用	差
1	156	31.0±0.3	8	30.3±1.4	0.7
2	153	31.0±0.3	6	29.2±1.3	1.8
4	146	30.8±0.3	13	32.2±1.2	-1.4
6	147	31.0±0.3	5	29.4±1.6	1.6
10	149	31.1±0.3	13	29.4±1.0	1.7
11	149	31.0±0.3	8	29.1±1.5	1.9
12	131	31.1±0.3	10	29.3±1.6	1.8
13	144	31.0±0.3	6	28.5±1.6	2.5
14	146	30.9±0.3	12	30.8±0.9	0.1
全体		31.0±0.3		29.8±0.4	1.2*

\*p<0.05

ると右常用者数平均値は12.9であることから、「右手常用13以上」125名と「右手常用13未満」40名に分類し、実習評価基準の区分別評価点を表3に示した。

実習評価基準の区分「準備」、「実施」、「終了後」、「総合点」のいずれにおいても「右手常用13以上」の方が高い得点となっているが、有意な差はみられなかった。

沐浴時間を比較すると、「右手常用13以上」は5分21秒、「右手常用13未満」は5分43秒で、わずかながら右手常用13以上の方が短くなっているが、有意な差はみられなかった。

沐浴練習回数を比較すると、「右手常用13以上」、「右手常用13未満」の両者間に有意な差はみられなかった。

利き手調査各項目における沐浴技術評価「総合点」を算出し、右手常用者と左手常用者を比較したのを表4に示した。ただし、左手常用割合の低いNo.3, 5, 7, 8, 9の5項目を削除した。いずれの項目においても沐浴技術評価総合点は右手常用者の方がわずかながら高くなっているが、左手常用者との間に有意な差はみられなかった。しかし、全体でみると右手常用者の方が、左手常用者より5%の危険率で有意に沐浴技術評価「総合点」が高かった。

#### IV 考 察

利き手の判定のためには、単に利き手がどちらであるかを問うのではなく、特定の動作をどちらの手で行うかを問うことが必要である<sup>3)</sup>といわれている。本報においては利き手を判定するために、日常生活動作の状態を把握するためのチェックリストを用いて利き手判定を試みた。

右利き・左利きに関しては生来的な利き手を表わす項目群と生後の生活により矯正された利き手を表わす項目群とに分けられる<sup>3)</sup>。項目No.7の「字を書く時、鉛筆を持つ手はどちらですか」という設問や「食事をする時、ハンを持つ手はどちらですか」、「ハサミを使う手はどちらですか」のように左常用の割合が低くなっているのは、しつけ等により矯正されたものであったり、日常生活用品が一般的に右利き用が多いことから右利きに矯正される行動である。生来的な利き手が明らかに左利きであっても、生後の生活により矯正され

た利き手が右であるために自分は右利きであると答えている者がいることより、安易な利き手の判定に警告を発する事実であると指摘している<sup>3)</sup>。

沐浴実習という初めての経験をする学生に対して、事前に右利き・左利きを把握することは必要であると思われる。しかし、利き手判定にあたっては、本人の「右利き」か「左利き」かの自覚以外に、チェックリスト等で利き手を判定する必要がある。

個々の利き手判定項目では沐浴技術における差を見出すことはできないが、いくつかの判定項目を合わせてみていくと、右利き・左利きの違いが沐浴技術評価に表われるものと思われる。

本報のように練習を最低3回以上実施した後、沐浴評価を行った結果、沐浴時間や沐浴技術評価「総合点」に「右手常用13以上」の群と、「右手常用13未満」の群との間に差はみられていない。しかし、やや得点等に「右手常用13未満」の方が低い傾向にあることから、初回の実施には特に利き手の影響が表われることが予測されることから実習指導者は配慮が必要であるといえる。

右手と左手の使用の違いについて金澤ら<sup>4)</sup>は、支持面が広く重い部位を支える場合は左右の手全体を使っているが、狭く軽い部位の場合は、右手は手全体を使うが左手は指掌面のみの狭い範囲を使う傾向がみられると述べている。沐浴に関しても重い児の頭部は左手で支え、右手で児の顔を拭いたり、洗ったり細かい動作を行う。しかし、利き手が反対である場合、児の頭部を利き手で支えることにより、顔を拭いたり細かい動作を利き手と反対側で行うことにより、二槽式の沐浴槽で沐浴を行う場合、左利きの者は右利きの者に比べて動作に時間がかかったり、十分に行えないことが推察される。本報においても明らかな差としてはみられていないが、わずかながら右手常用者の方に沐浴技術評価得点が高かったり、沐浴時間が短縮していることからそれらを考慮する余地があることを示唆している。

また、利き手は巧緻性を要求する課題であるほどはつきりと表われてきて、器用さという要素を含んでいる<sup>5)</sup>。器用さのことは熟練さ、巧みさ、巧緻性あるいはじょうずといったことばで表現されることもある。器用な運動とは、要素的な運動がつぎつぎと協調して行われ、余分な筋肉が使われず、目的に向って適切な

時間に適切な筋がちょうど適切な力を出して動くような運動である。また、作業によって器用さの学習は無限に可能であると考えられている<sup>6)</sup>。したがって、本報は練習を3回以上行った技術評価であるのでほとんど右常用と左常用とに差がみられなかったと考えられる。このように練習回数を積み重ねることにより右利き・左利きの影響はほとんど見られなくなるといえるので、学内や病院等で沐浴実習を十分に行うことの意義は大きい。

さらに、塚田ら<sup>7)</sup>は、「EMGの解析により、肘つき動作と身長に応じた沐浴台の高さが重要な指導要素である」とし、「実用的な意味では身長に応じて高さを変えることのできる沐浴台の開発が望まれる。」と述べていて、従来の据え付け型の沐浴槽の不十分さを指摘している。

これらのことより、沐浴指導を行なう際には、利き手を把握して、従来の据え付け型の沐浴槽にとらわれることなく、物品の配置等を考慮した実施が望まれる。この点について、妊産婦を対象に更に検討していきたい。

## V 結 論

3年制看護課程の2年次生165名を対象に新生児沐浴技術評価を行った。評価には19項目のチェックリストを用いた。各項目はA, B, Cの3段階評価を行うようになっており、それぞれに3, 2, 1点を付与して評価を数量化した。また、利き手調査項目について同時に調査を行い、利き手の沐浴技術評価への影響について以下の結果を得た。

1. 利き手調査項目は手の動作14項目を使用し、14項目中9項目は90%以上の対象者が右手を常用してい

た。

2. 沐浴技術評価得点は実習評価基準の区分「準備」「実施」「終了後」「総合点」のいずれにおいても「右手常用13以上」「右手常用13未満」との間に有意な差はみられなかった。
3. 利き手調査各項目における沐浴技術評価「総合点」は右手常用と左手常用の両者の間に有意な差はみられなかった。
4. 利き手調査項目全体では右手常用の方が左手常用より5%の危険率で有意に沐浴技術評価「総合点」は高かった。

## 文 献

- 1) 小林文子, 他: 新生児沐浴技術修得度の教員評価と学生の自己評価との比較: 三重看護, 13, 11-14, 1992.
- 2) 小林文子, 他: 日常生活動作の利き側に関する研究, 三重医学, 31, 569-576, 1987
- 3) 塩浦政男, 他: 正常者における利き手の判定, 総合リハビリテーション, 16, 5, 391-393, 1988
- 4) 金澤トシ子, 他: 看護者による機能的で快適なタッチに関する研究その2—下肢挙上時の左右の手の使い方の特徴—, 東京女子医科大学看護短期大学研究紀要, 19, 1-6, 1997
- 5) 前原勝矢: 右利き・左利きの科学利き手・利き足・利き眼・利き耳..., P.30-33, 講談社, 東京, 1989
- 6) 久保田 競: 手と脳, P.102-131, 紀伊国屋書店, 東京, 1982
- 7) 塚田トキエ, 他: 沐浴指導にはどんな要素が必要か?—筋のリラックス効果誘発条件について—, 母性衛生, 37, 4, 397-402, 1996